



ルーズリーフに 書かれた手紙 島本理生

私が紙と聞いて真っ先に思い出すのはルーズリーフである。

中学生の頃、私や親しい友達には皆授業にノートではなくルーズリーフを使っていた。当時、友達の間で手紙を書いて回すのが流行していたためである。授業中に便せんなど取り出したら先生から叱られてしまうし、ノートに書くとは後で破いて切り離す際に手紙の端もノート本体も汚くなってしまふ。その点、ルーズリーフは非常に便利だった。あまり誉められた話ではないが、ほとんどの用件をメールで済ませてしまふ今では、当時、皆があんなに夢中になって長い手紙を書いていたことがどこか微笑ましく、また、不思議なことのようにも感じる。

最近、自宅を片付けていたら、その頃に友達からもらった手紙を段ボールの中から大量に発見した。懐かしく思いながら整理していたとき、底のほうから急に色鮮やかな手紙の束が出てきた。

その手紙は友達の中で一番絵の上手だった女の子からもらったものだった。彼女からの手紙には毎回文字だけじゃなく色鮮やかなイラストが添えられていた。私はいつも受け取るのを楽しみにしていたのだ。

あらためてそれらの手紙を読み返していたら、一枚だけ、雰囲気の違いもが現れた。一枚のルーズリーフの、上半分だけが切り取られている手紙だった。それはたしか、私のちょっとした失言が原因でその友達と喧嘩をしてみました後に渡されたものだった。手紙の下半分には「上半分に言いたいことを書いたけど、やっぱり嫌な気分になったので切り取ってしまいました」と書かれていた。

その女の子は今から思えば少し変わっていて、時々、突飛なことを言ったりやったりして他人の気をひくのが上手い子だった。上半分だけ無い手紙はそんな彼女の、非常にオリジナリティ溢れる仕返しだったのだらう。その証拠に、手紙を受け取った直後の私は、その上半分に書

島本理生(しももとりお) 1983年東京都生まれ。98年「ヨル」で『値札』年間MVP受賞。01年『シルシ』で第44回群像新人文学賞(2001年)を受賞。03年『リトル・バグ・ウィッチ』で第25回野間文芸新人賞を受賞。著書に『ナラウ・シユ』『一千一秒の日々』など。現在『野性時代』に青春小説を隔月連載中。



ラビュタ阿佐ヶ谷にて

かれていたはずの内容が気になってしまい、またそれを気にしている自分が腹立たしく、非常に悔しい思いをした。そんな当時の気持ちだが、手紙を開いた瞬間、昨日のことのように思い起こされてきた。思えばこうやって紙に残されなかったら、私は喧嘩のこともいつの間にか忘れてしまい、たどえ思い出せたとともに蘇る感覚はもつと薄ぼんやりとして不鮮明だったのだらう。

それから中学校を卒業すると、誰もが携帯電話を使い始めたためにわざわざルーズリーフに手紙を書く友達はいなくなつた。あの多感だった時期に、どんな出来事が起こり、自分や友人がそれに対して何を感じ、どういうことに夢中だったかを克明に伝えてくれるのは、今となってはもらった手紙だけだ。

それらの手紙は今、苦い思い出の一枚も含め、全てきれいな箱に入れ直して大事にしまつてある。

PAPER Q & A Vol.3

Q. 水溶紙ってどんな紙ですか?

A. 外見は普通の紙と変わりませんが、水に浸けるとたちまち溶けてしまう紙です。

紙は水に濡れると破れやすくなる性質があります。その弱点を逆に長所として極限まで高めたものが、日本だけで作られている“水溶紙”です。水中ではそれこそ“溶ける”ように繊維がバラバラに分散しますが、水に濡れていない時は普通の紙と同じように字を書いたり、印刷などの各種加工もできます。その特性を利用して、機密文書や医療用検査台紙、播種シート、流し灯籠、ラベル用紙など、幅広く使われています。はがしにくいラ

ベルに水溶紙を使うと、水をかけるだけできれいに除去できます。また、水溶紙を使った流し灯籠は回収の手間も要らず、紙は自然素材なので川を汚すこともありません。便利ですね。



水に溶ける流し灯籠
(写真提供:三島製紙)

今回は8月3日号、平野文さんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo: Shiro Miyake